

沖縄修学旅行に行きました

去る5月7日から9日まで、沖縄修学旅行に行って参りました。3日間の活動の様子を簡単ですが、ご紹介いたします。

5月7日(土)

朝早い集合にもかかわらず、みんな今から始まる修学旅行にドキドキわくわくを隠せない様子。飛行機に乗り込むときには、「先生ベルト外したほうがいい？」と慣れない乗り物に少し緊張した様子の生徒もいました。飛行機が離陸するときには、「きゃー」と悲鳴が上がったものの、慣れてからは皆リラックスした様子でした。ただ、リラックスしすぎて緊張感がなくなり、立ち歩いたり、飛行機を降りるときに座席にごみがたくさん落ちていたり、浮足立った様子が残念でした。



そうこうしている間に那覇空港に到着しました。飛行機を降りた途端、むっとする湿気。「あつー！沖縄っぽいな～」と感想を漏らす生徒たち。それからバスに乗ってすぐに読谷村へ行き、1晩お世話になる民泊の方々と初対面です。開村式を終えると、少し緊張した面持ちでばらばらに解散していきました。さあ、どうなることやら。

5月8日(日)

2日目は昼まで民泊です。どんな顔をして帰ってくるのかと思いながら待っていると、「楽しかったー」と言いながら笑顔で集まってくる子どもたち。いろんな場所に連れて行ってもらった生徒、サーターアンダギーやシーサー作りを体験してもらった生徒など、1日という短い時間の中で貴重な体験をたくさんしたようでした。閉村式が終わり解散するぎりぎりまで、民泊先の人と名残惜しそうに言葉を交わす姿を見て、しっかりと交流を深めたのだと確信しました。何とかいい思い出を作らせてあげようという、民泊先の方々の温かい気持ちが生徒には嬉しかったようです。



午後からは、沖縄の青い海でマリンスポーツ体験をしました。2年生の臨海体験に引き続き、またしても晴れ男・木村先生パワーか？予報を覆して天気は快晴！ホテルの方も「この子どもたちは運がいい。一昨日まで2週間雨が続いていましたよ。」とおっしゃっていました。こんがりとした肌を焼きながら、バナナボート・シーカヤック・クラスレクに、皆楽しそうに取り組んでいました。

夜はエイサー体験です。最初に青年部の方々のエイサーを見ました。沖縄の伝統衣装に身を包んだ踊り手の方々が、伝統的な舞を6曲披露してくださいました。その後、40名が2回に分けてステージに上がり、太鼓のたたき方を教えてもらいました。



5月9日(月)

最終日も晴れました。午前中は3つの班に分かれて平和学習を行いました。1・2組が読谷村のシムクガマとチビチリガマへ行った後、佐喜真美術館へ。3・4組は糸数壕へ行ってから対馬丸記念館へ。5・6・7組はひめゆり

平和祈念館へ行って5・6組は轟壕、7組はクラシンジョウ壕へ分かれて行きました。

ガマ(自然の洞窟)の中は暗く湿っていて、何ヶ月どころか、数日でもこんなところで暮らすことができるのかという環境です。集団死があったガマも多く、戦争の愚かさと悲惨さが空気となって今も漂っているような雰囲気でした。ガマから出るときにガイドさんに「上を見てごらん」と言われました。見るとガマの入り口から緑に覆われた優しい光が目の前に広がります。何とも言えない安堵の気持ちが、ホッとため息となってもれました。「これが、平和だよ。」と言ったガイドさんの言葉とその光景が胸にしみました。平和の尊さと、それを守っていく使命が自分たちにあることを感じ取れる場であったと思います。



午後からは、戦後の復興で『奇跡の1マイル』と呼ばれた国際通りで昼食と自由散策です。お土産をいっぱい抱えながら、班ごとに自由に楽しんでいた様子でした。県庁前に集まって、さあバスに乗るぞ!という時に雨が降ってきました。ぎりぎりセーフで天気に恵まれ、全日程を無事終えることができました。

